



Photo: 橋杭岩

CONTENTS

- 特集／新しいがん治療薬の開発
がんペプチドワクチン治療学講座
- 新任教授紹介／部門紹介／診療科紹介
- 院内TOPICS
- お知らせ／季節の病気Q&A
- インフォメーション

理 念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

新しいがん治療薬の開発 がんペプチドワクチン治療学講座

和歌山県立医科大学 外科学第2教室 山上 裕機 勝田 将裕

和歌山県立医科大学外科学第2教室では癌に対する新規治療法として、がんペプチドワクチン療法の開発を行っております。我々はこの研究開発をさらに発展させるべく、日本初の市民支援による寄附講座として「がんペプチドワクチン治療学講座」を開設します。

手術、抗がん剤、放射線療法に 続く第4の治療法として期待

がんペプチドワクチン療法は、がんに対する特異的な免疫力を高めてがん細胞を殺す治療法です。がん細胞の表面には、特有のペプチドが目印として発現しており、我々の体の中にはこの目印を標的としてがん細胞を攻撃するリンパ球(細胞障害性T細胞:CTL)が存在します。がんペプチドワクチン療法は、このがん細胞に特有のペプチドを人工的に合成し投与することで、ペプチドに反応するCTLを体内で大量に増殖させ、特異的にがん細胞を攻撃する仕組みです。がんペプチドワクチン治療は、近い将来に新規のがん治療法として最も期待されている治療法の一つであり、その世界的開発競争がますます加速しています。

一方、がんが進行し現在の標準療法では「治療がない」と宣告された多くの患者さんは、新規治療の開発を待望しています。しかし、新薬の開発には規制が多く、試験の適格基準を満たさないなどの理由で治療を提供できない患者さんも数多くありました。

こうした背景の中で、がんペプチドワクチン治療

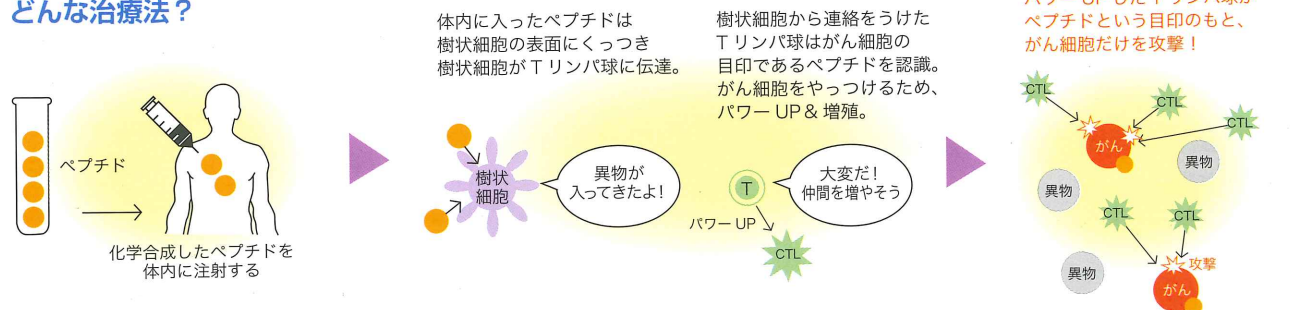


外科学第2教室 山上 裕機 教授

薬の開発研究をオールジャパン体制で迅速に進めることが、早期実現の見地からも必須の課題であります。また、多様な患者さんにより幅広く治療を提供するため、裾野を広げる研究の展開が求められています。

そこで我々は、全国初のがん患者団体寄附による

がんペプチドワクチン療法 どんな治療法？



全国初！市民団体の寄付による治療学講座を開講

寄附講座「がんペプチドワクチン治療学講座」を開講することといたしました。当講座では和歌山県立医科大学のみならず、全国施設で臨床試験を展開し、その研究成果を国内外に発信することで全国のがん治療の質を向上させるとともに、新規がん治療法を開発することで患者の治療選択肢を増やすことを目的としています。さらに、これまでの臨床試験の枠組みでは治療できなかった患者さんを対象とする臨床試験を立ち上げることで、より多くのがん患者さんに希望の火を灯すことができ、人道的な対応が可能になります。

また、当講座開設時は食道癌、膵臓癌といった消化器癌の中でも難治性といわれているがん患者を対象とする臨床試験を展開しますが、段階的に治療対象



外科学第2教室 勝田 将裕

癌種を増やしていくことで、がんペプチドワクチン療法の裾野を広げていきたいと考えております。

さて、当講座の研究資金は患者さんおよびその家族からの寄附を基にするものであり、「市民のためのがんペプチドワクチンの会」という患者団体が全国から広く寄附を募っております。当講座設立に関する学内審査は平成25年1月に承認されました。しかし、資金が目標額に達していないため、未だ講座開設には至っていません。我々は日本中の皆さんにこのような新しい取り組みを御支援いただき、広く寄附を募ることで、まさに患者さんを含めた市民の皆様、医療関係者の皆様とともに早急に講座を開講し、このプロジェクトを進めてまいりたいと考えております。

◀ 5月25日、和歌山県立医科大学で開催された「がんペプチドワクチン市民公開講座」

当講座設立運営のための寄附は随時「市民のためのがんペプチドワクチンの会」にて受け付けております。

- ▽「市民のためのがんペプチドワクチンの会」ホームページ(<http://www.ccpvc.org/>)
- ▽銀行振込(三井住友銀行国立支店 口座名:ペプチド特定 普通口座:8023794)
- ▽郵便振替(がんペプチドワクチンの会 口座記号:00130-7-548677)

新任教授紹介

質の高い治療に向けて 最先端抗がん剤治療と化学療法



和歌山県立医科大学附属病院
第3内科教授
山本 信之(やまもと のぶゆき)

今年4月、和歌山県立医科大学附属病院第3内科の教授に就任いたしました。平成元年に和歌山県立医科大学を卒業し、国立がんセンター中央病院などを経て、静岡県立静岡がんセンター呼吸器内科で勤務してきました。専門はがん治療で、長年肺がん治療・研究に取り組んでまいりました。

現在、日本人の死因別死亡者数において、死因トップはがんです。部位別では肺がんが最多で、和歌山県においても平成23年度の肺がん死亡率は全国ワースト2位(がん統計75歳未満年齢調整死亡率)であり、がん対策の推進が急務です。

がんの治療は主に手術と放射線療法、そして化学療法があり、がんの進行度と患者さんの体力に応じてそれらを組み合わせた集学的治療を行っています。

第3内科ではこれまでも呼吸器内科として主に化学療法を含む肺がんの内科的治療を実施してきましたが、今後は、ガイドラインに沿った標準的な治療から肺がんに対する新規化学療法の開発を推進し、最新かつ最も質の高い治療が世界に先立って和歌山の地で受けられるよう尽力する所存です。

また、地域基幹病院との連携体制を充実させ、医師、看護師、薬剤師によるチーム医療体制で、がんの死亡率減少に取り組むたいと思っています。

経歴

- | | | | |
|--------------|---------------------------|----------------|--|
| ・平成元年3月 | 和歌山県立医科大学卒業 | ・平成9年4月～14年3月 | 近畿大学医学部第4内科(呼吸器内科) |
| ・平成元年5月～3年6月 | 和歌山県立医科大学附属病院臨床研修医 | ・平成14年4月～25年3月 | 静岡県立がんセンター呼吸器内科部長
(平成23年1月～25年3月 静岡県立がんセンター副院長兼務) |
| ・平成3年7月～4年5月 | 那智勝浦町立温泉病院内科 | ・平成25年4月～ | 和歌山県立医科大学内科学第3講座教授 |
| ・平成4年6月～9年3月 | 国立がんセンター中央病院レジデント・がん専門研修医 | | |

部門紹介

平成25年度より、地域連携室と病床管理センターが同じフロアとなり、スムーズな入院・退院を支援できるように協働しています。



地域連携室

地域連携室は、室長(医師)、看護師2名、社会福祉士6名、事務担当1名で構成されています。

主な業務は、①転院・退院支援および在宅療法支援、②医療福祉相談(経済的問題、医療・介護に係る社会資源の紹介や利用相談、福祉制度紹介、医療相談、療養上の不安や悩み相談など)、③紹介元医療機関への結果報告・情報提供の管理、④連携登録医制度の円滑運営、⑤地域(医療機関を含む)との連絡調整、となっております。

患者さんおよびその家族がともに地域社会で安心して暮らせるように、医療、保健、福祉など総合的な支援を行っています。

病床管理センター

病床の効率的な運用を目的として、2006年4月(平成18年)に病床管理センターが設立されました。当センターは、センター長(医師)、副センター長(看護師)、事務1名で構成されています。

当センターでは、全病棟の病床状況を把握し、共通床と各科の空床の管理を行っています。安全な医療の提供、安心して入院できる信頼される病院を目指し、待機を余儀なくされている患者さんが1日も早く入院できるように、円滑な病床管理を心がけています。また、入院決定患者さんへの入院日時の連絡も行っています。

その他、病床管理に関するデータ集計し、それらのデータをもとに病床編成の見直しを行い、共通床ルールの見直しを行うなど、病院経営にも参画しています。

診療科紹介

第一内科(糖尿病・内分泌・代謝内科)

国内外の研究者と連携し 最先端治療の研究を推進



第一内科は糖尿病、内分泌代謝疾患を専門とする内科です。内分泌疾患は視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺から分泌されるホルモンが全身の各臓器で体の調整をおこなえずバランスが崩れる疾患です。2010年に就任された赤水教授は甲状腺および消化管ホルモンであるグレリンの研究を専門とし、甲状腺分野

第一外科(心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科)

大動脈瘤の施行件数県下最大 24時間体制で緊急手術にも対応

心臓血管外科では冠動脈バイパス術をはじめ弁置換術、弁形成術、大動脈瘤手術、小児心臓手術など様々な手術に取り組んでいます。大動脈瘤においては他科と連携し新しい低侵襲な血管内治療を開始しており、県下で最大の施行件数となっています。また、県下では小児の先天性心疾患の手術を行っている唯一の診療科です。週4～5件の定期手術に加え、24時間体制で県内外からの緊急手術にも対応しており、2012年の心臓血管外科の総手術件数は405例でした。

呼吸器外科、乳腺外科では肺癌、乳癌などの悪性疾患を中心に診療しています。2012年の総手術件数は367件でした。単なる切除外科ではなく、診断から術前術後の補助療法を含め

教授 赤水 尚史

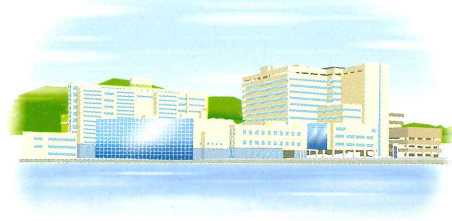
では赤水教授が代表をつとめる日本甲状腺学会検討委員会から甲状腺クリーゼの診断基準を示されたほか、今年は当科主催の第56回日本甲状腺学会学術集会在11月14～16日に和歌山市で開催されることになっています。一方、糖尿病は血管合併症のほか、高血圧、脂質代謝異常、骨代謝異常など全身への影響がみられます。糖尿病を引き起こす原因は多様であり、病態に合わせたオーダーメイドの治療・療養指導を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が協力して実践しています。このように内分泌疾患や糖尿病は領域を超えて総合的に診療する技術をもとめられるといえます。さらに、糖尿病、甲状腺、グレリンについて国内外の研究者と連携して最先端の治療に応用される研究も進めています。



教授 岡村 吉隆

た集学的治療までトータルに診療を展開しています。手術に際してはセンチネルリンパ節生検や胸腔鏡手術などを積極的に導入し、低侵襲化を図っています。呼吸器外科領域においては手術の9割以上が胸腔鏡下手術です。乳腺外科領域では乳房再建を導入して術後の整容性の確保に努めています。





風疹が全国的に急増、和歌山県は昨年度の17倍、予防と症状をまとめてみました

■風疹とは

風疹は風疹ウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、感染力は麻疹(はしか)や水痘(水ぼうそう)ほどは強くありません。通常、春先から初夏にかけて流行します。インフルエンザ同様に咳やくしゃみによって、唾液や鼻汁の中に含まれる「風疹ウイルス」を自分の身体に取り込むことで感染(飛沫感染)します。



風疹ウイルスに感染すると、2～3週間の潜伏期間の後、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが現れます。妊婦が妊娠初期にかかると、赤ちゃんが感染し、心臓の病気になるったり、目や耳に障害を生じる「先天性風疹症候群」となる可能性があります。

■和歌山県の発生状況

昨年から全国的に風疹患者が増えています。和歌山県内でも4月に入り、報告数が急激に増加しており、6/10時点で昨年度の17倍に達しています。特に20歳代から50歳ぐらいまでの男性で多くみられています。

■風疹ワクチンの予防接種を受けましょう

風疹には治療法がないため、予防としてワクチンで免疫をつけることが重要です。妊娠中は予防接種を受けることができないため、特に妊娠を希望される方、または可能性の高い方は早めの予防接種を検討してください。また、妊婦への感染を予防するために、周囲の方もワクチンを接種しましょう。

ワクチン接種を希望される方は、かかりつけ医、もしくはお近くの医療機関にご相談下さい。

患者さんの心を癒すホスピタルアート



ホスピタルアートの第一人者、版画家の山本容子さんと樋口隆造先生

長年新生児医療に携わり、平成25年3月31日まで総合周産期母子医療センター副センター長を務められた樋口隆造先生は、出産に伴う様々な不安に悩まされるお母さんたちにとって、アートが「心のくすり」

となり不安の解消に効果的であると考え、全てのお母さんが笑顔になることを願いホスピタルアートの寄贈を申し出られました。制作については、ホスピタルアートの第一人者で、心を和ます作品を多数発表している山本容子氏が手掛けられました。

注意

総合周産期母子医療センターでは、感染予防のため、入院中の患者さんの配偶者、両親以外の方の病棟への立入を制限しています。

和歌山県初の開催、音楽とふれあう「読響コンサート」

平成25年4月15日に読売日本交響楽団による「読響ハートフルコンサート」が玄関ホールで開催され、多くの患者さんが、バイオリン、ビオラ、チェロによる演奏を楽しみました。この企画は、がん患者の支援に取り組む公益財団法人正力厚生会が入院患者さんらに音楽を楽しんでもらおうと読響と協力し、全

国のがん拠点病院で開催され、和歌山県では初の開催となりました。



弦楽四重奏の繊細で美しい音色が患者さんらを魅了しました

県民公開講座 「世界肝炎デー in 和歌山 2013」 ～最適なC型肝炎治療が受けられるように～

慢性肝炎をほうっておくと知らないうちに肝硬変や肝臓がんになります。和歌山県の現状は肝臓がんの死亡率が高く、和歌山県立医科大学附属病院肝疾患相談支援センターでは下記の内容で説明・啓発を行います。

日時

平成25年7月28日(日)午後2時～5時
午後2時～4時 講演(開場午後1時)
午後4時～5時 健康相談Q&A

場所

和歌山県立医科大学内 講堂(入場料無料)

講演

1. 肝硬変になっていませんか？

和歌山県立医科大学 消化器内科 森 良幸

2. 肝硬変は命にかかわる病気です

和歌山県立医科大学 消化器内科 新垣 直樹

3. 肝臓がん検診を受けていますか？

和歌山県立医科大学 消化器内科 玉井 秀幸

4. 肝臓病の食事療法

和歌山県立医科大学 病態栄養治療部
管理栄養士 田中 明紀子

健康 相談 Q&A

司会:和歌山県立医科大学 消化器内科 玉井 秀幸
和歌山県立医科大学附属病院
肝疾患相談支援センター 看護師 魚海 明美

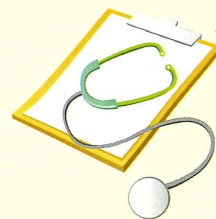
問い 合わせ

和歌山県立医科大学附属病院
肝疾患相談支援センター
TEL:073-441-0850(直通)
(平日9:00～16:00)

初期臨床研修医人気ランキング 医師臨床研修医マッチング結果 114施設中9位！

10月25日、医師臨床研修マッチング協議会より平成25年度採用となる研修医のマッチング結果が発表されました。

研修医の大学病院離れが進むなか、本院のマッチ者数は、全国の大学病院(施設別)中9位と過去最高位を記録しました。



研修医マッチングとは

マッチング参加者(医学部6年生等の研修希望者)とマッチング参加病院(研修病院)が合理的効率的に組み合わせを決定できるシステムをマッチングと言います。

順位	病院名	マッチ者数
1位	東京大学医学部附属病院	126
2位	東京医科歯科大学医学部附属病院	118
3位	京都大学医学部附属病院	84
4位	筑波大学附属病院	76
4位	東京女子医科大学病院	76
6位	神戸大学医学部附属病院	70
7位	杏林大学医学部附属病院	64
7位	京都府立医科大学附属病院	64
9位	北里大学病院	62
9位	和歌山県立医科大学附属病院	62
11位	大阪市立大学医学部附属病院	61
12位	兵庫医科大学病院	60
13位	聖マリアンナ医科大学病院	59
...		
114位		



季節の病気 Q&A <熱中症について>

Q1 どのような症状でしょうか。

⇒めまいや立ちくらみ、こむら返りなどの軽い症状から、頭痛、吐き気、集中力の低下を来します。さらに重症であれば意識の低下、痙攣などの様々な症状があります。

Q2 夜中に寝ているときにも発症するのでしょうか。

⇒夜間でも発症します。特に小児、乳幼児や高齢者は、自分で体温調整ができないため注意を要します。夜間気付かれずに放置され重症化することもあります。

Q3 熱中症かなと思ったらどうしたらいいでしょうか。

⇒涼しい場所に移動し、冷たい風をあてるなどして体を冷やします。意識がしっかりしていれば積極的に水分、塩分補給を行います。自分で水分がとれない、様子を見ても改善がない、意識状態が悪い、などあれば早急に病院を受診してください。

Q4 日常生活で気を付けることはありますか。

⇒大事なことは周りの環境調整と自分の体調管理です。室温は28℃を超えないように調整し、こまめに水分補給を行いましょう。熱中症患者は年々増え続けており、また梅雨明けに急増する傾向にありますので注意しましょう。



インフォメーション

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「予約制」とさせていただきます。ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」にて地域連携室にFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

地域連携室

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月～金 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などで紹介状をご用意ください。
※特定の医師による診察をご希望の場合は必ず「〇〇科〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 当院予約センターに直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

電話予約センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

病院ボランティア募集

和歌山県立医科大学附属病院では、外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようお手伝いして下さるボランティアの方を募集しています。



活動時間

外来① 8時50分～11時30分
外来② 11時50分～14時50分
病棟 病棟と調整の上決定します。

問い合わせ先

和歌山県立医科大学附属病院
(代表:073-447-2300)
医事課 ボランティア担当

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

看護師・助産師募集

和歌山県立医科大学附属病院では
看護師・助産師を募集しています。

<http://www.wakayama-med.ac.jp>
公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1
電話:073-441-0711 事務局総務課
※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。
または右記までお問い合わせください。



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌 まんだらげ(vol.25)

2013年6月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院 〒641-8510和歌山市紀三井寺811-1

Tel 073-447-2300

ホームページアドレス <http://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>

外来受付時間

・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
・休日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
9月です。